

生産委託需要取り込み

新堀製作所 16年度売上高58億円へ

自動車用シートフレームなどを製造する新堀製作所（新堀寛社長、埼玉県日高市）は、2016年度の売上高を今年度見通しの30%増に当たる58億円に拡大する。自動車メーカーの工場移転などに伴う生産委託需要を取り込み、現在4社である部品メーカーとの取引を15社前後まで増やす考えだ。工場の移設対応ができない中小の部品メーカーに対して、生産の肩代わりを提案していく。

ホンダが「フィット」の生産拠点を鈴鹿製作所（三重県鈴鹿市）から寄居工場（埼玉県寄居町）に移すなど自動車メーカーの生産移管が活発化しているが、中小の部品メーカーでは移管に対応できないケースも増えているという。こうしたケースに着目し、関東近郊での部品需要に対して、同社を生産拠点とした協業体制を提案する。プレス・パイプベンダーの金属加工、溶接、表面処理から組み立てまで部品を一貫生産できることから、短期納入に必要な作業の大半を請け負うことが可能だとしている。

部品の信頼性向上を目的とし、11月にはプレス部品の性能解析ソフトも導入した。既存の非接触式三次元測定機による品質検査を併用することで、新型車向けなどの試作品や商品開発も顧客と共同で行えるとしている。今回狙うのは、自動車メーカーや一次サプライヤーからの新規受注ではなく、二次サプライヤーとの協業需要。「取引先を拡大することで、自社の信頼向上

と事業拡大を図っていきたい」（同社）としている。

点め 廠の